

令和7年度

「運営に関する計画」

最終評価



大阪市立高津中学校

令和8年2月

大阪市立高津中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

平成29年度～令和3年度、本校教育の大きな柱として掲げている「生徒の進路保障を重点目標とし、生徒・保護者・地域からの信頼度を高める」の実現に向け、教職員一丸となって教育活動に取り組むことができた。その結果、学力・体力の向上、道徳心・社会性の育成などにおいて一定の成果が見られた。

子どもが安心して生活できるよう学級活動や道徳の時間などを充実させ、教育相談活動を定期的実施することで、問題行動等を早期に発見し迅速に解決することができている。その結果、校内秩序を保ち、落ち着いた環境で教育活動に取り組むことができた。しかし、平成30年度以降は不登校になる生徒が増加しており、今後も家庭との連携を強化し、生徒一人ひとりの個に応じた支援を行っていくことが喫緊の課題である。また、地域防災に興味・関心が低い生徒が少なくなく、今後も地域と連携して、防災フォーラムへの参加を促進するなどして、地域防災に貢献できる生徒を育てていくことが、地域で育つ子どもたちといった観点からも大きな課題といえる。

学力向上については、国語、数学、英語について習熟度別少人数授業やティーム・ティーチングなど個に応じた指導を充実させるとともに、ICT機器を活用した授業を月平均6割程度実施することで、生徒アンケートにおいて「授業はわかりやすい」と肯定的に回答した生徒の割合の高さにつながった。また、全国学力・学習状況調査および英検I B Aテストの結果についても、全国(大阪市)平均を大きく上回り、進路保障に向けたきめ細やかな学習指導の成果が出ている。一方、生徒の学習状況については、生徒アンケートにおいて「授業を受けて、もっと学習しようと思う」と肯定的に回答する生徒が7割程度にとどまり、「学習に関する興味・関心・意欲」に課題があるなど、今後、取り組んでいかなければならない点が明確となっている。また、全国体力・運動能力等調査においては全国平均を下回る種目があり、今後の体力向上に向けた取り組み内容を検討する必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- 令和4年度～令和7年度の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を毎年90%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 令和4年度～令和7年度の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。
- 令和7年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 令和7年度末の生徒アンケートにおいて「地域の防災について興味関心がある」と回答する生徒の割合を75%以上にする。
- 令和7年度末の校内調査において、登下校を含め、学校管理下でのけが等の件数を60件以下にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和4年度～令和7年度の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を毎年80%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府

比を、同一母集団において経年的に比較し、令和3年度より向上させる。 R3 : C

- 令和4年度～令和7年度の大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を70%以上にする。
- 令和4年度～令和7年度の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を毎年50%以上にする。
- 令和7年度実施の全国学力・学習状況調査生徒質問紙における「学校の授業時間以外に1日当たりどのくらいの時間勉強しますか」という質問に対して「全くしない」以外を回答する生徒の割合および令和7年度末の生徒アンケートにおける「授業を受けて、もっと学習しようと思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- 令和7年度実施の全国学力・学習状況調査生徒質問紙における「授業の内容はよくわかりますか」という質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する生徒の割合および令和7年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である50m走、立ち幅とび、握力の平均の記録を令和3年度よりそれぞれ0.1、5、1ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の推進】

- デジタル教材を活用した授業を週5回以上実施する。
- デジタルドリル等の学習者用端末を活用した学習を、月平均4回以上実施する。
- ゆとりの日を週に1回設定するなど、効率的な会議運営を図る。
- 令和7年度末教職員アンケートにおいて「教育環境を整備している」と回答する教職員の割合を90%以上にする。

【その他】「人を大切にする教育」を推進するため、「チーム高津」として生徒・保護者・地域から信頼される質の高い教職員集団を確立する（本校独自目標）

- 令和7年度末の生徒アンケートにおける「先生方は、生徒一人ひとりを大切にし、積極的にかかわってくれる」「先生方は、自分の相談に乗ってくれる」と回答する生徒の割合をともに85%以上にする。
- 令和7年度末の保護者・生徒アンケートにおいて「学級・生徒会・委員会活動・学校行事など生徒の自主性、主体的を尊重した活動を多く取り入れている」と回答する保護者・生徒の割合を全て90%以上にする。
- 令和7年度実施の全国学力・学習状況調査生徒質問紙における「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する生徒の割合を令和3年度より5%向上させる。
- 令和7年度末の生徒アンケートにおいて「校舎内を美しく」の1～5の項目すべてにおいて3学年とも「はい」と回答する生徒の割合を85%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。

【R 4 ; 82%⇒R 5 ; 80%⇒R 6 ; 82%⇒R 7 ; 77%▼】

（内訳 1年生；80%、2年生；84%、3年生；66%）

○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

【R 4 ; 11.1%⇒R 5 ; 16.1%⇒R 6 ; 25.7%⇒R 7 ; 22.7%△】

学校の年度目標

○年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と回答する生徒の割合を過去3年間の平均値以上にする。

【R 4 ; 84%⇒R 5 ; 85%⇒R 6 ; 82%⇒R 7 ; 88.7%△】（平均）83.6%

○年度末の校内調査において、登下校を含め、学校管理下でのけが等（要医療）の件数を前年度と同等か、それ以下にする。

【R 4 ; 101件⇒R 5 ; 86件⇒R 6 ; 61件⇒R 7 ; 69件▼】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度と同等か、それ以上にする。

【(校内アンケート) R 4 ; 56.8%⇒R 5 ; 48.3%⇒R 6 ; 49.2%⇒R 7 ; 46.6%▼】

（内訳 R 6 ⇒ R 7 1年生；44.0%⇒49.3%、2年生；58.1%⇒44.5%、3年生；58.1%⇒45.3%）

○令和7年度の中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

【(国語3年生) R 3 ; 1.11⇒R 4 ; 1.13⇒R 5 ; 1.13⇒R 6 ; 1.12⇒R 7 ; 1.04▼】

【(数学3年生) R 3 ; 1.18⇒R 4 ; 1.11⇒R 5 ; 1.13⇒R 6 ; 1.18⇒R 7 ; 1.01▼】

○令和7年度の大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を83%以上にする。

【R 4 ; 82.3%⇒R 5 ; 82.8%⇒R 6 ; 82.4%⇒R 7 ; 79.2%▼】

○年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上にする。

【R 4 ; 54%⇒R 5 ; 58%⇒R 6 ; 54%⇒R 7 ; 49.7%▼】

学校の年度目標

○年度末の生徒アンケートにおける「授業を受けて、もっと学習しようと思う」と回答する生徒の割合を前年度と同等か、それ以上にする。

【(校内アンケート) R 4 ; 80.1%⇒R 5 ; 74.0%⇒R 6 ; 75.5%⇒R 7 ; 76.9%△】

（平均）76.6%

○年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」と回答する生徒の割合を前年度と同等か、それ以上にする。

【(校内アンケート) R 4 ; 93.5%⇒R 5 ; 88.9%⇒R 6 ; 91.4%⇒R 7 ; 87.1%▼】

（平均）90.2%

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を、男女ともに大阪市平均と同等か、それ以上にする。

【学びを支える教育環境の推進】

全市共通目標

○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等でICT活用が適さない日数を除く)

【R 6 ; 35.7%⇒R 7 ; 67.2%▼】

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を65%以上にする。

【R 6 ; 64.29%⇒R 7 ; 67.7%△】

学校の年度目標

○年度末教職員アンケートにおいて「教育環境を整備している」と回答する教職員の割合を前年度と同等かそれ以上にする。

【R 6 ; 88%⇒R 7 ; 74%▼】

【その他】

「人を大切にする教育」を推進するため、「チーム高津」として生徒・保護者・地域から信頼される質の高い教職員集団を確立する(本校独自目標)

学校の年度目標

○年度末の生徒アンケートにおける「先生方は、生徒一人ひとりを大切にし、積極的にかかわってくれる」「先生方は、自分の相談に乗ってくれる」と回答する生徒の割合をともに過去3年間の平均値以上にする。

【(積極的にかかわる) R 4 ; 91.9%⇒R 5 ; 91.4%⇒R 6 ; 92.7%⇒R 7 ; 87.6%△】
(平均) 92.0%

【(相談に乗る) R 4 ; 92.4%⇒R 5 ; 92.3%⇒R 6 ; 93.6%⇒R 7 ; 89.6%△】
(平均) 92.8%

○年度末の保護者・生徒アンケートにおいて「学級・生徒会・委員会活動・学校行事など生徒の自主性、主体的を尊重した活動を多く取り入れている」と回答する保護者・生徒の割合を全て過去3年間の平均値以上にする。

【(保護者アンケート) R 4 ; 91.5%⇒R 5 ; 91.7%⇒R 6 ; 92.1%⇒R 7 ; 87.3%▼】
(平均) 90.7%

【(生徒アンケート) R 4 ; 94.8%⇒R 5 ; 94.6%⇒R 6 ; 93.6%⇒R 7 ; 93.0%▼】
(平均) 94.0%

○年度末の生徒アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する生徒の割合を前年度と同等かそれ以上にする。【R 6 ; 81%⇒R 7 ; 80.2%▼】

○年度末の生徒アンケートにおいて「校舎内を美しく」の1～5の項目すべてにおいて3学年とも「はい」と回答する生徒の割合を過去3年間の平均値以上にする。

【(生徒アンケート) R 4 ; 96.1%⇒R 5 ; 95.4%⇒R 6 ; 94.7%⇒R 7 ; 92.1%▼】
(平均) 94.6%

3 令和7年度の自己評価結果の総括

(令和7年度)

中期目標の最終年を迎え、中期目標の達成に向けた年度目標 21 項目の内、達成できた項目は前年度を下回る 7 項目 (29%) であった。一方、達成できなかった項目は 14 項目 (71%) であり、達成できていない項目の課題解消に向けて年度目標や取組内容を再検討するとともに、教職員の指導力向上と環境整備に努めたい。

【安全・安心な教育の推進】について、生徒アンケートで「規則正しい生活を心がけている」と肯定的に回答した生徒が 88.7% (年度目標は 83.7%) おり、校内で継続して取り組んでいる項目では成果が見られた。

いじめの防止・対応に関しては、毎月実施している「学校生活アンケート」、生徒 1 人 1 台端末の積極的な活用 (令和 8 年 1 月から原則持ち帰り)、そして校内の見守りを強化することによって、いじめにつながる事案を早期発見し解決することができた。生徒アンケートで「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」と最も肯定的に回答した生徒が 77.1% (年度目標は 90%) おり、目標を達成することはできなかった。しかし、上記の質問に肯定的な回答をした生徒は 96.9% の生徒が存在していることは成果である。

不登校の対応に関しては、各学期の初めに行う「教育相談 (カウンセリング)」や、学習者用端末を使用した「心の天気」「教職員への相談機能」を導入することにより、生徒の日々の様子を的確に捉えて教職員間で共有するようになった。その結果不登校生徒の比率を前年度より減少させることができた。また、校内不登校支援教室 (ほっとスペース) の開設も不登校生徒の居場所として機能したことも大きな要因の一つである。そして、引き続きこども相談センター、大阪市子どもサポートネット等の関係諸機関との連携を密に行うことで、不登校傾向にある生徒の居場所の確保を積極的に進めてきた。その結果、前年度不登校生徒の改善の割合を、昨年より 2 ポイント上昇できたことは成果である (令和 5 年度は 16.1%、令和 6 年度は 25.7%)。今後も家庭との連携を強化し、生徒一人ひとりに応じた丁寧な対応に努めたい。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】の学力面では、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と最も肯定的に回答した生徒が前年度より減少し、48.6% であった。各教科において「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、グループ学習やペア学習を行った成果が学校全体で表れてはいるものの、今後発問の内容も工夫したい。また、「授業の内容はよくわかる」と肯定的に回答した生徒は平成 29 年度からすべての年度で 85% 以上あり、今年度も 87.1% と高い値であった。

これらの成果は学力調査等にもあらわれており、中学生チャレンジテストでは 5 教科すべてが大阪府平均を上回った。また、全国学力・学習状況調査も国語、数学ともにすべての観点で全国平均正答率を上回り、無解答率についても全国平均を大きく下回っていた。さらに、大阪市英語力調査における CEFRA 1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合 (4 技能) は 79.2% (年度目標は 83%) であった。これは、国語・数学・英語において習熟度別少人数授業やティーム・ティーチングなどの個に応じた指導を充実させ、つまずきの部分を解消することで学習に対する不安を取り除けたことに加え、全教員を対象にした相互参観・研究協議を通して、授業内容の改善や教材の工夫に取り組んだ成果と考える。

体力面では、生徒アンケートにおいて「運動 (体を動かす遊びを含む) やスポーツをすることは好き」と最も肯定的に回答した生徒が 49.7% と大阪市の平均と同等の数値を達成している。一方、全国体力・運動能力、運動習慣等調査における握力や 50m 走、ハンドボールのスコアは全国平均を下回っており、筋力をつけるとともに柔軟性を高めることに課題があることがわかっ

た。

今後も中学生チャレンジテストや大阪市英語力調査（GTEC）、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を分析し、生徒の学習達成度や体力・運動能力の状況を把握したうえで、基礎学力の定着・運動能力の向上を図るよう授業の改善に努めたい。

【学びを支える教育環境の推進】については、各教室に高輝度プロジェクターやケーブル等の ICT 環境を整備することで、ICT 機器月平均活用率が 8 割以上の値を示すことが当たり前の状況になった。また、授業では各教科の特質に合わせて動画・コンテンツなどのデジタル教材を効果的に活用することで、わかりやすい授業につながった。1 人 1 台端末の原則持ち帰りによって、学習動画コンテンツ（スタディサプリ）を積極的に活用し授業改善を進めるとともに、「個別最適化された学び」を実現できるよう工夫したい。

教職員の長時間勤務の解消に向けては、「欠席・遅刻等連絡アプリ（ミマモルメ）」や「採点支援システム」を導入することにより、教員の業務を効率化することができた。とりわけ、「採点支援システム」を活用することで、教員の採点時間を大幅に短縮できるとともに、各設問の正答率を分析して授業改善に役立てることができている。また、会議のペーパーレス化と事前に資料を共有することで会議にかける時間も大幅に短縮することにつながった。

本校独自の目標である【『人を大切にする教育』を推進するため、『チーム高津』として生徒・保護者・地域から信頼される質の高い教職員集団を確立する】については、これまでも取組内容に関する指標を十分に検討し、教職員が情報を共有しながら教職員・各分掌・各委員会・各学年など様々な場面で学校全体として教育活動に取り組んできた。その取組が、落ち着いた教育環境につながっていると考える。生徒と向き合う時間の確保については、生徒アンケートにおいて「先生方は、生徒一人ひとりを大切にし、積極的にかかわってくれる」と回答した生徒が 87.6%、「先生方は自分の相談に乗ってくれる」と回答した生徒が 89.6%となり、85%の中期目標を上回ることができた。今後も教育相談を定期的実施し、生徒との信頼関係を深めるとともに、問題行動等を早期に発見し、迅速に解決できるよう取り組んでいきたい。

健康・環境整備面では、保健・美化委員会の日々の活動を通して、自分自身の健康面に関する意識やごみの分別・清掃活動等美化に対する意識が非常に高い。生徒アンケートからは、「清掃時、積極的に活動した」「落書きをしたことがない」「ゴミはきちんとゴミ箱に捨てている」と回答した生徒が目標の 80%を上回り、「スリッパで廊下に出ない」「教室にごみが落ちていたら拾う」の項目に関しても、今年度は目標に達した。

次年度からは、新しい教育振興基本計画のもと、今日的な教育課題に向けて、教職員の指導力向上を図るとともに、学級定数見直しにともなう教室不足の解消を含め、さらなる教育環境の整備に努めてまいる。

大阪市立高津中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を90%以上にする。 【R 4 ; 82%⇒R 5 ; 80%⇒R 6 ; 82%△】 (内訳 R 5 ⇒ R 6 1年生 ; 72%⇒77%、2年生 ; 83%⇒80%、3年生 ; 83%⇒88%)</p> <p>○年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 【R 4 ; 11.1%⇒R 5 ; 16.1%⇒R 6 ; 25.7%△】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○年度末の生徒アンケートにおける「規則正しい生活を心がけている」と回答する生徒の割合を過去3年間の平均値以上にする。 【R 4 ; 84%⇒R 5 ; 85%⇒R 6 ; 82%▼】 (平均) 83.7%</p> <p>○年度末の校内調査において、登下校を含め、学校管理下でのけが等(要医療)の件数を前年度と同等か、それ以下にする。 【R 4 ; 101件⇒R 5 ; 86件⇒R 6 ; 61件△】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部・事務部 — いじめ、不登校、児童虐待等への対応 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談活動を充実させる。 ・体罰防止を徹底する。 ・いじめ等を早期発見し、迅速に課題解決を行う。 ・心の天気や一人一台端末の相談機能を活用し、生徒の日々の様子を観察する。 ・生徒の学びの環境整備を行う。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期に1回以上カウンセリングや日常の教育相談活動から、生徒を理解する。(生活指導部) ・いじめの早期発見に努め学年と生活指導部が連携し、課題解決する体制を構築する。(生活指導部) ・被害調査やいじめアンケート、月1回の学校生活アンケート、また、毎日の心の天気を実施し、いじめ等の早期発見や生徒の日々の様子を観察する。(生活指導部) ・生徒理解を深めるため毎月の生徒情報交換を実施する。(生活指導部) ・令和7年度開設のほっとスペースについて、管理職をはじめ教職員との連携や共同学校事務室を活用した情報収集、校内への情報提供などを行い、生徒の個別の学びの環境整備を行う。(事務部) 	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部 — 問題行動への対応 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秩序の保たれた授業の維持と基本的生活習慣を徹底する。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日登下校指導を徹底し、基本的生活習慣の維持向上を図る。 ・毎朝のあいさつ運動や月1回の新聞発行など、生徒会活動を活発に行い、自律した行動の定着を促す。 ・月1回程度の風紀点検を実施し、相互確認によって規範意識を高める。 ・授業の始まりと終わりのあいさつを徹底する。 	B
<p>取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部・管理作業部 — 安全教育の推進 —</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内及び登下校の安全を確保し、あらゆる事故を未然防止する。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の安全と快適に学校で過ごせる教育環境の充実に向けて、月1回の施設設備の安全点検を行う。事前に補修、修繕を実施し、必要に応じて各部所と連携を図り改善を行う。(管理作業部) ・熱中症対策講習を1学期に実施し、安全に配慮する。(生活指導部) ・全校集会や学年集会等で、安全安心に過ごせるように、共通理解を図る。(生活指導部) ・体育や部活動について、年間計画や練習計画を立て、適切な指導をする。(生活指導部) 	B

<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 教務部（進路） — キャリア教育の充実 — ・職業講話、職場体験、高等学校説明会、進路説明会を実施し、これからの社会を生きるための幅広い視点を身につけさせる。</p>	
<p>指標 ・各学年で系統的に進路学習に取り組む。1・2年ではキャリア教育として、職業講話、職業学習を実施することで、社会的、職業的に自立する力を養う。また、3学期に卒業後の進路に向けて各学年全体で進路学習をすることにより自らの進路を選択できる力を養う。 3年では公立高校から講師を招き、生徒向けに高校説明会を実施する。また、学期ごとの進路学習に取り組むことで、卒業後の自らの進路を選択できる力を養う。 ・保護者対象に校内で、高等学校説明会を2回、進路説明会を2回実施し情報提供を行う。</p>	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 道徳委員会・人権教育員会 — 道徳教育・人権を尊重する教育の推進 — ・思いやりの心、協力し合う態度を育成する。</p>	
<p>指標 ・思いやりの心を持ち、協力し合う態度を育成し、人権教育の知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面から子どもたちの人権感覚を養うため、外部人材を用いた取り組みを年間3回以上行う。 ・人権尊重の精神を育むため、3年間を通して積み重ねができるよう計画を立て実践する。 ・道徳的価値に基づき、資料を読み深めた授業になるよう、読み物資料の研究を継続する。 ・学年で資料の読み合わせ等を行い、理解を深める。 ・すべての学年において、学期末まとめプリントの項目の「授業の中で自分の考えを発表する」ことができた生徒が80%以上になることを目標とする。</p>	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】 特別支援委員会 — インクルーシブ教育の推進 — ・特別支援学級・通級指導教室の取り組みをコーディネートし、円滑に運営する。</p>	
<p>指標 ・必要に応じて、特別支援教育推進委員会を行い、共通認識を持って、学習・生活指導を行う。 ・障がいに応じた対応を、共通認識する。 ・特別支援教育サポーターとの情報交換を密に行い、生徒の実態を的確に把握する。 ・連絡帳を用いて、家庭との連絡をとり、保護者との情報交換を密に行う。 ・個別の教育支援計画をつくり、計画に沿って生徒の発達に応じたカリキュラムを組み、個々に適した通級指導を行う。</p>	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部・事務部 ・各学期初めのカウンセリング、月1回の学校生活アンケートといじめアンケートを実施するとともに、心の天気毎日入力させた。学年と生活指導部が連携し、いじめの早期発見に努めることができた。また、ほっとスペースを活用し、登校できる生徒も増えてきており、不登校生徒への支援も連携して取り組めた。（生活指導部） ・共同学校事務室内で新たに不登校サポートルームを開設する学校に対し、購入物品や物品の調達方法などの情報共有を行った。また、管理職を通じてほっとスペース支援員と連携し、ホワイトボードパーテーションの整備を充実させるなど、生徒が安心して過ごせる学びの環境整備を行った。（事務部）</p>	

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部

- ・毎日登下校指導を行い、日々生徒の様子を観察した。生徒会と風紀委員による毎朝のあいさつ運動や月1回の生徒会新聞の発行など、生徒会活動を活発に行うことができた。

取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】生活指導部・管理作業部

- ・熱中症対策講習を今年度も実施し、学校生活を含め日常生活の中で自分自身の身を守ることに理解を深めることができた。また、全校集会と学年集会において、部活動中、登下校中や学校で生活を送る中で、帽子の着用を許可し、体調に留意するなど、安全に過ごすための指導ができた（生活指導部）
- ・月1回の施設整備の点検を通して、安全対策のため、教室の窓ガラスをプラスチック板に変更した。また、熱中症対策のため、プールのミスト設置を行った。専門的な工事が必要なものは事務室と連携し、今年度はプールのシャワー管と防球ネットの修繕を実施した。

(管理作業部)

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 教務部（進路）

- ・6社の職種の違う事業所に来てもらい、職業講話を実施し、職業に興味関心を持たせた。また、クラスの班活動で職業調べをすることで職業に対する理解を深めた。
- ・2月に職業体験を実施すべく、現在準備中である。
- ・進路指導委員会を年間6回実施し、本年度の入試の新しい情報などは、その都度3年の学年を中心に速やかに伝達した。また、生徒一人ひとりの進路の確認をした。
- ・3年生保護者対象の三中合同公立説明会をOBFで行った。
- ・私立高校16校に来てもらい、3年生保護者対象の説明会を行った。
- ・3年生保護者への校内進路説明会を6月と11月の年2回行った。
- ・1年生の保護者に対して本校の通知表のつけ方、受験時に全学年の評価が用いられることの説明を行った。

取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】道徳委員会・人権教育員会

- ・ユニセフ講話や性教育など、外部人材を用いた取り組みを年間3回以上行うことができた。
- ・月1回の人権教育委員会で各学年での取り組みの進捗状況を共有しながら、年間指導計画に沿って指導することができた。
- ・道徳的価値に基づき資料を読み深められるよう、教材研究を進めた。
- ・毎月の学年打ち合わせで、教材の読み合わせや確認を行った。
- ・学期末のまとめプリントの「授業の中で自分の考えを発表すること」の項目が「できた」という生徒の割合が、各学年とも80%を上回る結果であった。

取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】 特別支援委員会

- ・教室の整備を行い、学習環境を少しでも快適にするよう努めた。
- ・個々に適した指導を行った。
- ・職員会議等で、通級生徒・特別支援学級生徒に関する情報を共有した。

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部・事務部

- ・今年度行った取り組みを継続する。心の天気や学校生活アンケートの内容を教員間で共有し、生徒の実態把握に努める。また、いじめや不登校の問題は日々の生徒の様子を長い目で注視する必要があるため様々な問題行動に対応していきたい。(生活指導部)
- ・職員会議のなかで「事務からのミニ研修会」を行い、契約に関する事務について共通理解を図った。そのうえで、限られた予算で必要な物品を購入していくか考える機会を作り、共通理解を図った。次のステップとして、教職員一人一人が自分事としてとらえ、実際に意識して動いていくことが必要であると考え。(事務部)

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部

- ・毎朝のあいさつ運動や生徒会新聞の発行も継続して行い、生徒会執行部を中心に生徒主体で生徒会活動に継続して取り組んでいきたい。また、風紀検査において校則違反に近い髪型をしてくる生徒がいるため生徒評議会などでその都度、意見を出し合って主体的に校則を違反する生徒の意識を改善していきたい。

取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 生活指導部・管理作業部

- ・校内の安全点検を継続して行い、生徒にも校内設備の異変や物品の管理への徹底を促す。
(生活指導部)
- ・熱中症講習会を継続して行い、日頃からの安全教育を徹底していく。また、異常な暑さが続いていく中で、その環境に適した対応をとっていきたい。(生活指導部)
- ・窓ガラスのプラスチック板への取り替えを引き続き進めていく。(管理作業部)

取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】 教務部(進路)

- ・出願時の書類等において不備が出ないようにしていきたい。特に昨年度から実施された公立WEB出願の体制を反省点、問題点を整理し来年度に生かしていきたい。また、校務支援PCを利用した事務内容においてミスをなくすためのチェック体制を確立していきたい。
- ・私立・公立高校の入試の情報を漏らさず、教師間で共有していきたい。
- ・生徒の入試結果の情報を整理し、次年度の進路指導にいかしていきたい。
- ・進路説明会などにおいて、保護者にも参加を呼びかけ、少しでも早い時期から進路について考えていく機会を増やしたい。

取組内容⑤【基本的な方向2 豊かな心の育成】 道徳委員会・人権教育員会

- ・普段の授業や学級活動でのペアワーク・班学習・学校行事などを通じて「ちがいを認めあう心」「協力し合う態度」を育成していく必要がある。
- ・授業力を高めていくために、相互参観や学年を超えた情報交換等、教員間の交流の機会を持ちたい。

取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】 特別支援委員会

- ・来年度も、情報収集、各学年・家庭との連絡を密にしていきたい。
- ・小学校との連携を図り、交流できる機会をつくる。
- ・学習教材の充実、教室の整備を、引き続き行っていく。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度と同等か、それ以上にする。 【(校内アンケート) R 4 ; 56.8%⇒R 5 ; 48.3%⇒R 6 ; 49.2%△】 (内訳 R 5 ⇒ R 6 1 年生 ; 36.3%⇒44.0%、2 年生 ; 53.3%⇒58.1%、3 年生 ; 53.1%⇒58.1%)</p> <p>○令和5年度の中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 【(国語3年生) R 3 ; 1.11⇒R 4 ; 1.13⇒R 5 ; 1.13⇒R 6 ; 1.12▼】 【(数学3年生) R 3 ; 1.18⇒R 4 ; 1.11⇒R 5 ; 1.13⇒R 6 ; 1.18△】</p> <p>○令和5年度の大阪市英語力調査における C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を 83%以上にする。 【R 4 ; 82.3%⇒R 5 ; 82.8%⇒R 6 ; 82.4%】</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 55%以上にする。【R 4 ; 54%⇒R 5 ; 58%⇒R 6 ; 54%▼】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○年度末の生徒アンケートにおける「授業を受けて、もっと学習しようと思う」と回答する生徒の割合を前年度と同等か、それ以上にする。 【(校内アンケート) R 4 ; 80.1%⇒R 5 ; 74.0%⇒R 6 ; 75.5%△】 (平均) 76.5%</p> <p>○年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」と回答する生徒の割合を前年度と同等か、それ以上にする。 【(校内アンケート) R 4 ; 93.5%⇒R 5 ; 88.9%⇒R 6 ; 91.4△】 (平均) 91.3%</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点を、男女ともに大阪市平均と同等か、それ以上にする。 【(大阪市平均) R 6 ; 44.31%⇒(本校) R 6 ; 43.4%▼】</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】教務部 — 思考力・判断力・表現力等の育成 — ・授業内容を充実（わかる授業）させ、生徒に授業の重要性を啓発する。</p> <hr/> <p>指標 ・国語、数学、英語において、年間を通じて計画的に習熟度授業を実施する。 ・全教員対象に、年に1度、相互参観を行い、授業力の向上をめざす。 ・C-NET を利用した授業を前期に1年、中期に2年、後期に3年を対象に週に1回全クラスで実践し、英語力のアップを図る。 ・各教科において、ICT 機器を使った教材など、生徒が興味関心を抱くような授業内容や教材作りをめざす。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 教務部・総合的読解力委員会 — 「主体的・対話的で深い学び」の推進 — ・学力補充の在り方を点検し、新たな取り組みを進める。</p> <hr/> <p>指標 ・長期休業中に、学年ごとに、国語、数学、英語は5時間以上、その他の教科においても、生徒の状況に応じて補充授業を行う。（教務部） ・校内アンケートにおける「校内研修は充実していたかと思うか」の項目について、肯定的な回答をする教職員の割合を7割以上にする。（教務部） ・情報を正しく読み取り、考えを形成し表現する総合的読解力を育成していくために言語活動が充実した授業を行う。（総合的読解力委員会）</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 事務部 — 言語活動・理数教育の充実 —</p> <p>・予算の有効活用を行う。 ・教職員の環境整備を行う。</p> <hr/> <p>指標 ・各予算が事業目的に沿って有効活用できるよう、共同学校事務室等を通じて情報提供・共有を行い、そこで得た知識等を活かし、学校経営に不可欠な環境整備を行うとともに、生徒が家庭学習・補充学習において、さらに学習意欲が向上する教材を教職員の事務負担を最小化するなかで作成できるよう予算の有効活用等を行う。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】教務部

- ・国、数、英において、習熟度別少人数授業だけでなく、少人数授業や IT を実施し、一人ひとりの学力に応じた学習が行われるように努めた。
- ・授業力の向上のため、6月より全教員対象に相互参観を行い、相互参観後には、教職員同士の意見交換も行った。
- ・今年度も C-NET を利用した授業を実践し、英語能力の向上に努めることができた。
- ・各教科でさまざまな工夫をし、創作活動や実験、ICT 教材の活用、コミュニケーション活動などを通して体験的学習に努め、生徒が興味関心を抱くような授業を取り入れた。また、スタディサプリを授業の復習、朝の学習や家庭学習で活用し、学力の定着に努めた。これらが功を奏し、生徒アンケートで「授業がわかりやすい」と回答する生徒の割合が 87.1% であった。

取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

教務部・総合的読解力委員会

- ・夏季休業中に苦手を克服する講座や、個別学習、質問日を各学年、国語、数学、英語、理科、社会において、5時間以上設け、2学期以降の学習をスムーズに進められるように学習内容の定着を図った。
- ・ICT の研修を実施し、教育機器の有効利用について理解を深めた。校内アンケートにおける「校内研修は充実していたかと思うか」の項目について、肯定的な回答をする教職員の割合は 96% であった。
- ・各単元で言語活動を取り入れた授業を計画的に進めた。ICT を使用し情報を正しく読み取り、考えを形成していけるよう工夫した。(総合的読解力)

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

事務部

- ・共同学校事務室で各学校の予算執行計画書を集め共有を行い、学校事務職員が互いに学びあい、資質向上を図るための資料とした。また、構成校勤務を通じて多様な環境にふれることで知識や経験の幅を広げることができた。また、予算調書の様式が全市統一されることからいち早くその様式を取り入れ、教職員に研修と周知を行い、次年度予算編成に活用している。(事務部)

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】教務部

- ・習熟度別少人数授業の利点を生かし、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用できるよう、個々の生徒の達成状況にあった指導方法の研究をさらに深めていく。
- ・今後も C-NET を利用した授業方法の研究を英語科と相談し、実施していきたい。また、相互参観後には、教職員同士の意見交換を行ってきた。教科の横断的学習に活用できるような意見交換を来年度も取り入れていきたい。
- ・相互通信機能、デジタルドリルをはじめとする、さまざまな教育機器を有効に利用できるよう研究を深めていく。
- ・来年度も情報教育委員会とともに ICT に関する研修を計画していきたい。「校内研修会は充実している」という質問の否定的回答が約 4% だったので、研修内容について、各部・委員会等と連携し、計画していく。

取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

教務部・総合的読解力委員会

- ・生徒アンケートで、「わたしは授業をうけて、もっと学習しようと思う。」の肯定的回答は76.9%であった。否定的回答が23.1%と、昨年と比べ、1ポイント減少した。今後も生徒の学習意欲に応えられるよう、校内研修の充実に努めるとともに、家庭学習・補充学習におけるより一層効果的な教材の作成をめざしていく。(教務部)
- ・アンケートで、「考えを形成することにおいて、さまざまな情報や思考ツールをもとに、考えようとしたか。」の肯定的回答は86.7%であった。総合的読解力を身に付けようという姿勢は見られるものの、さまざまな取り組みや情報、思考ツールの利用ができていないため、教科の授業や行事等の取り組みとも関連させ、横断的な学びとして情報や思考ツールを活用し総合的読解力が身に付いていくよう努める。(総合的読解力)

取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】

事務部

- ・予算を大きく超えて支出している物品の補填ができない状況まできている。職員会議等を通じ教職員で「学校の予算」について共通理解を図り、物品購入についてその必要性などを一から教職員全員で考えていく必要がある。(事務部)

大阪市立高津中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <p>○授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等でICT活用が適さない日数を除く）【R6；35.7%▼】</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を65%以上にする。 【R6；64.29%△】</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○年度末教職員アンケートにおいて「教育環境を整備している」と回答する教職員の割合を前年度と同等かそれ以上にする。 【R6；88%△】</p>	<p>B</p>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 — ICTを活用した教育の推進 — 情報教育委員会・事務部</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の天気を実施することで自己の気持ちを客観的にみる力を育むとともに、生徒とのコミュニケーションを密にし、生徒の心の状況を把握する。（情報教育委員会） ・毎日1回は学習者用端末を用いた授業や心の天気などを実施する。 (情報教育委員会) ・年3回（学期に1回）、教員の相互参観等を活用し、実際にICT機器を使用した授業の状況等を確認し、より効果的かつ戦略的な予算執行等の参考資料とする。 (事務部) 	A
<p>取組内容②【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】 教務部・生活指導部・健康教育部 — 教育コミュニティづくりの推進 —</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターと連携を図り、基本的には週3回程度の学力補充を行う。 (教務部) ・「子どもの生活を考える会」「祭礼巡視」や「バンビ」（子育てサークル）を通して学校・家庭・地域と連携を図る。 (生活指導部) ・年1回のふれあい清掃を地域の人とともに実施する。（健康教育部） ・地域連携を視野に入れ、地域とともに防災教育の充実に努める。（健康教育部） ・年2回の避難訓練（地震、火災を想定）を行い、防災についての意識を高めさせる。 (健康教育部) 	B
<p>取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 事務部 — 働き方改革の推進 —</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・チーム学校の一員として、学校内だけでなく教育委員会などとも連携を図り、校舎保全・生徒の学びの環境整備を行う。 ・「事務だより」を年9回発行し、HPや学校からのお知らせだけでは知りえない学校事務を通じた学びの環境整備について情報を発信する。また、ミマモルメを活用したデータ配信を中心とし、予算削減等を行う。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 情報教育委員会・事務部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会の日を除き、原則毎朝、心の天気を実施することで生徒とコミュニケーションをとることができている。 ・職員研修を実施したことで様々な教科の授業や学年のアンケートなどで学習者端末を使用する機会が増えた。 ・スタディサプリやデジタルドリルを宿題配信することで家庭学習を充実させることができた。 ・宿題の解答を teams にアップすることでペーパーレス化を推進することができた。 (情報教育委員会) ・年間で合計3回学校行事等を通じて、実際にICT機器の活用を確認することができた。また、各教室に設置されているプロジェクターについて、今年度も1台更新を行った。 (事務部) 	

取組内容②【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

教務部・生活指導部・健康教育部

- ・地域コーディネーターと連携を取り、週3回程度の学力補充を行った。(教務部)
- ・学校のきまりに関する相談や行事の報告を行うことができ、地域の方から助言をいただけた。より良い学校運営に向けて情報共有ができた。「バンビ」は生徒会執行部が参加する予定である。(生活指導部)
- ・1・2年生でふれあい清掃を行い、地域と連携し、清掃活動と地域交流に努めた。1年生で防災教室を行い、消防署、区役所と連携し、体験的な活動を通じて災害時の安全確保に対する意識を高めた。避難訓練は、地震と火災を想定して、年2回行うことができた。消防署と連携しながら、防災に対する意識の向上に努めた。(健康教育部)

取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 事務部

- ・特別支援教室にシャワーパンを設置する工事をはじめとし、更衣室の電気スイッチ整備など1月までに工事だけでも14件行い、生徒や教職員が気持ちよく過ごせるよう環境整備を行った。さらに、これから契約を行う工事もあるため、さらなる環境整備を行う予定である。(事務部)

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】

情報教育委員会・事務部

- ・端末が新しくなり、家庭への持ち帰りをすることで、端末忘れや充電のし忘れが発生している所以对策を検討する必要がある。
- ・現時点では保管庫に入れること推奨しているが全員が入れている状況ではない。
- ・制カバンに端末を入れているため、乱雑に扱うことで、故障や破損の恐れがある。
(情報教育委員会)

- ・物品を購入する際の教職員との情報共有はできたが、購入するための予算確保を学校全体で考え、行っていく必要がある。また、日常的な使用についてもヒアリングを行い、費用対効果が適切であるか検討していく必要がある。(事務部)

取組内容②【基本的な方向9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】

教務部・生活指導部・健康教育部

- ・定期的に地域コーディネーターと連携をはかれるよう時間を確保していく。(教務部)
- ・子どもの生活を考える会などで接する機会があるが、生徒が地域の大人と接する機会が増えるような取り組みを考えていきたい。(生活指導部)
- ・年間2回の避難訓練に消防署の方に来ていただき、消火活動や講評をいただいていたが、来年度から1回になる。そのため、1学期に火災を想定した避難訓練を先に行い、消火体験を行う。2学期には地震を想定した避難訓練を行い、体育館でビデオ鑑賞を行うようにする。
- ・防災教室は今年度から1時間で行うようにした。来年度もこの予定で行っていきたい。
(健康教育部)

取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 事務部

- ・来年度も教室改造にかかる工事が予定されており、教育委員会が進める工事と学校が行う工事を調整を行う必要があるため、関係機関と連携を密にしながら進めていく必要がある。(事務部)

大阪市立高津中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【その他】 「人を大切にする教育」を推進するため、「チーム高津」として生徒・保護者・地域から信頼される質の高い教職員集団を確立する（本校独自目標）</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○年度末の生徒アンケートにおける「先生方は、生徒一人ひとりを大切に、積極的にかかわってくれる」「先生方は、自分の相談に乗ってくれる」と回答する生徒の割合をともに過去3年間の平均値以上にする。 【（積極的にかかわる） R 4 ; 91.9%⇒R 5 ; 91.4%⇒R 6 ; 92.7%△】（平均）92.0% 【（相談に乗る） R 4 ; 92.4%⇒R 5 ; 92.3%⇒R 6 ; 93.6%△】（平均）92.8%</p> <p>○年度末の保護者・生徒アンケートにおいて「学級・生徒会・委員会活動・学校行事など生徒の自主性、主体的を尊重した活動を多く取り入れている」と回答する保護者・生徒の割合を全て過去3年間の平均値以上にする。 【（保護者アンケート） R 4 ; 91.5%⇒R 5 ; 91.7%⇒R 6 ; 92.1%△】（平均）91.8% 【（生徒アンケート） R 4 ; 94.8%⇒R 5 ; 94.6%⇒R 6 ; 93.6%▼】 （平均）94.3%</p> <p>○年度末の生徒アンケートにおける「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する生徒の割合を前年度と同等かそれ以上にする。【R 6 ; 81%△】</p> <p>○年度末の生徒アンケートにおいて「校舎内を美しく」の1～5の項目すべてにおいて3学年とも「はい」と回答する生徒の割合を過去3年間の平均値以上にする。 【（生徒アンケート） R 4 ; 96.1%⇒R 5 ; 95.4%⇒R 6 ; 94.7%▼】 （平均）95.4%</p>	<p>B</p>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】 生活指導部 — キャリア教育の充実 — ・生徒が主体的に考え判断できる力を育成する。</p> <p>指標 ・月1回、生徒会活動や生徒評議会を活発に行い、生徒に主体的に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ・生徒が学校行事や委員会活動を自主的に運営することで、自主自立の精神を高める。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 健康教育部 — 健康教育の推進 — ・規則正しい生活習慣を身に付け、心身ともに健康な学校生活を送ることができる環境を整える。</p> <p>指標 ・年9回以上の大清掃を行う。 ・学期に1回の破損調査を行い、直せる箇所はできる限り迅速に補修する。また、清掃区域を細かく分担し、教師監督のもと、日々の美化活動が活発になるように努める。 ・毎月の美化委員会で、美化強化箇所(場所)を決め、重点的に清掃を行う。 ・手洗い・うがいを励行し、感染症の予防に努めさせる。 ・基本的な生活習慣や生活リズムの形成に努めさせる。 ・保健委員会の活動を活性化し、文化祭の発表などを通じて、健康意識の向上に努める。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】 生活指導部 ・学校行事は生徒主体で取り組むことができた。また、生徒会活動や評議会では、学校の決まりの改正に向け、現状を理解しながら学校をよりよくするために何が必要か真剣に考え取り組めた。様々な活動において、常に生徒中心で行うことができたと考える。</p> <p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 健康教育部 ・年9回の大清掃を行うことが出来た。 ・破損箇所点検を長期休暇中に行い、教室環境を整えることができた。また、教師監督のもと清掃活動に努めることができた。 ・大清掃では美化強化箇所を決め、常にきれいな学校を目指して取り組んだ。 ・手洗いうがいを徹底し、感染症予防に努めた。 ・基本的な生活習慣や生活リズムを整えるため、保健委員会の活動や保健だよりを活用し、健康意識の向上に努めた。</p>	

次年度への改善点

取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】 生活指導部

- ・生徒たちが様々な取り組みに主体的に参画しているが、まだまだ、大人の意見が反映されることもある。もっと深く考えさせることが大切である。今後も生徒会活動や生徒評議会の内容を充実させていきたい。

取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 健康教育部

- ・来年度は通常清掃をさらに徹底していきたい。懇談時や実力テスト・カウンセリング期間では、清掃なしの日になっているが、副担任や教科外であいている場合は、特別区域の清掃を積極的に行っていきたい。
- ・来年度から給食委員と連携を行い、食に関する指導にも力を入れ、心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事を理解させる指導を行っていきたい。

◆ 校長が学校の実情に応じて設定した項目

a. 努力目標

【達成状況】

(%)

(1) 時間を大切に。

- ① 準遅刻をしなかった
- ② 下校時刻を守っている
- ③ チャイムの合図を守って席に着いている
- ④ 移動教室には速やかに移動している
- ⑤ 決められた時間内に作業している

第1学年	第2学年	第3学年
88	89	85
98	100	100
99	100	99
97	100	100
96	94	93

(2) 校舎内を美しく。

- ① 清掃時、積極的に活動した
- ② 落書きをしたことがない
- ③ スリッパで廊下へでたことがない
- ④ 教室にゴミが落ちていたら拾う
- ⑤ ゴミはきちんとゴミ箱へ捨てている

第1学年	第2学年	第3学年
94	99	98
86	95	97
50	76	76
67	67	80
94	96	99

(3) 言葉づかいを正しく。

- ① 先生に対して正しい言葉を使っている
- ② 友達どうしで正しい言葉を使っている
- ③ 親に対して正しい言葉を使っている
- ④ あいさつをきちんとしている
- ⑤ 『ありがとう』『ごめんなさい』などが言えている

第1学年	第2学年	第3学年
97	98	99
89	78	94
91	80	93
97	96	100
96	98	100

【経過達成状況と今後の改善点】

	第1学年	第2学年	第3学年
(1)	準遅刻の数値が高くなってきた、生活習慣が安定しない、身の周りの整理整頓ができない、学校から足が遠く生徒が多くみられる。	⑤において、中間反省に続いて非常に数値が高い。グループワークにおいては時間内に作業ができるようになった。	時間においては、どの項目についても高い数値を保つことができている。3年間の指導の成果が表れた。
(2)	学習中ノートに落書きをしている様子が見受けられる。 ロッカーの整理整頓も含め、校内の美化について、もっと意識を高めていきたい。	④に関しては、数値は大きく変わらない。ロッカーの整理整頓も含め、校内の美化について、もっと意識を高めていきたい。	③④に関しては、数値が大きく上がった。自発的に意識して行動できるようになったと思われる。
(3)	言葉遣いに関して、少しずつ改善の兆しが見られるが、友人同士の中では課題が残っている。2年生に向け、少しずつ、先輩、後輩に対する礼儀など、責	言葉遣いに関して、大人に対しては、少しずつ正しい言葉遣いが見られるが、友人同士では課題が残る。最終学年では、精神的に落ち着くことを期待した	言葉遣いに関しては、1年次から大幅に数値は向上している。それに伴い、友達同士でのトラブルも大きく減少した。卒業後もより良い人間関係の構築に努

任ある行動ができる意識を高めたい	い。	めることを期待したい。
------------------	----	-------------

令和7年度

大阪市内立高津中学校

b. 研究主題（各教科・各委員会）

教科名	経過達成状況 ※【 】は主題または努力目標
国語	<p>【基礎学力の定着を図り、ことばによる表現力・ことばによる理解力を高める指導法の探求に努める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年では毎回、1年3年では毎週の授業での漢字テストや漢字ドリル・漢字プリントの宿題などを通して基礎学力・語彙力の定着に努めた。また、古文の暗唱や各教材の朗読、単元ごとの作文や論文指導を行い、表現力の向上を図った。 ・ビブリオバトルを全学年で行い、文化祭で披露することで、読書活動を活性化することができた。
社会	<p>【基礎・基本の充実を図るとともに、自ら学ぶ意欲を高める指導法の研究に努める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を問うだけでなく、地図・グラフ・写真・資料などを活用した課題を取り入れることで、丁寧に調べる力やまとめる力を育むことができた。 ・独自のプリントやICTを使用することで興味関心や基礎学力を向上させることができた。
数学	<p>【基礎的学力の定着を図るとともに、個々の興味・関心・能力に応じた教材や指導法の研究に努める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テストを行い、基礎的な計算力の定着を図った。 ・タブレット端末で調べ学習をしながら身近なことがらと結びつけた教材の工夫を行い、興味・関心をひくように努めた。 ・グループワークなどを取り入れることで、生徒間でさまざまな考えを共有し、理解を深めていくことができた。
理科	<p>【基礎学力の定着を図り、実験・観察を通して興味・関心を高め、自ら学ぶ意欲を育む指導法の研究を深める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物を用いた実験・観察を重視し、実験等が困難なものに関しては、ICT教材を用いることで、多くの身の回りの事物・現象と学習内容を結び付け、関心・意欲の向上に努めた。 ・特に実験・観察では、自ら課題を解決する授業展開を工夫することで、科学的思考力・判断力を育むことができた。 ・定期的に小テストを行い、基礎学力の向上を図った。

音 楽	<p>【鑑賞や表現活動を通して音楽に対する感性を豊かにするために、教材や指導法の研究に努める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱、器楽の練習で教えあいやグループ内でコミュニケーションをとりながら意見交流を行い、技術の習得や理解を深めることにつながった。 ・教材を通じて歌唱や器楽（箏・リコーダー・ギター）の基本的な奏法を習得し、曲想にあった表現を追求する過程で、楽曲の持つ美しさや背景への理解度を深め、豊かな感性をはぐくむ一助となった。
美 術	<p>【創造力及び美的愛好心を高める教育の推進に努める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なポスターや書体の鑑賞、パッケージデザインのアイデア課題などで、美術の社会的意義について考えさせた。 ・相互鑑賞を行い、発想や色彩など美術的観点で互いの良いところを見つけ合うことができた。 ・伝統工芸など、地域の伝統的な美意識や技術を習得する学習から、新たな表現を生み出すための創造性の基礎とすることができた。 ・予算と授業時数を考え、より教材選定について研究をしていく必要がある。
保 健 体 育	<p>【生徒の実態を把握し、個々に課題を設定するとともに、体力を向上させ、傷害の防止を徹底する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年、新体力テストを行い、個々の課題を把握し、分析することができた。また、各単元の振り返りを行うことで、客観的に授業に臨む姿勢を定着させることができた。 ・年間を通して、大きな傷害なく終えることができた。この後も引き続き気を引き締めて取り組みたい。
技 術 ・ 家 庭	<p>【実生活に即した教材・教具の開発と活用に努める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年を通し ICT 機器を使った視覚的教材を多用した。 ・ニュースなどをもとに「自分ならどう行動するか」を意識させ、より実生活に近くなるような教材を準備した。 <p>【体験的な学習を通して、工夫し創造する能力を育成する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近なものを製作し、機能性や有効性を意識させた。さらに時間内に作成するために、毎時間の活動計画を工夫できるように努めた。 ・出前授業を利用して、より実践的な体験学習をし、エネルギー変換の技術・環境面など様々な側面から学習した。
英 語	<p>【コミュニケーションな授業をめざした指導法のあり方について研究し、4技能5領域をバランスよく身に付けさせるよう努める】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独自の教材を作成することでより効果的なコミュニケーションな授業を展開し、4技能の向上に努めることができた。 ・ C-NET とのコミュニケーション活動を3学年とも実施し、4技能5領域を統合した体験的学習に努めることができた。
人 権	<p>【人権尊重の精神を基盤とし、豊かな心を持ち、社会の変化に対応できる個性豊かな人材を育成する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月に1回の人権教育委員会で、各学年での取り組みの進捗状況を確認しながら年間指導計画に沿って指導することができた。 ・ 普段の授業や学級活動でのペアワーク・班学習・学校行事などを通じて「ちがいを認めあう心」「協力し合う態度」を育成していく必要がある。
道 徳	<p>【資料を通し、道徳的価値について深く考え、意見の交流ができる授業をめざす】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月に1回の道徳委員会で、各学年の授業の進捗状況の確認や、授業内容についての情報交換ができた。 ・ 月に1回の学年打ち合わせで、教材の読み合わせをし、道徳的価値についての確認等、共通理解を図ることができた。 ・ 数回の相互参観の機会を持つことができた。
性 教 育	<p>【性について学び、考えることは、生き方を考えることにつながるという認識に立ち、生徒の性に対する認識を深め、自己決定力を育む】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間計画通り、各学年性教育の授業を2回ずつ行うことができた。 ・ 性教育の授業を通じて、自らの心や成長に関心を持ち、性に対する認識を深めることができた。
情 報 教 育	<p>【情報社会を生き抜くための力を育成する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報モラル教育を推進し、安全かつ正しい機器の使い方を習得させるとともに、携帯依存に潜む危険性について考える機会を提供することができた。 ・ 心の天気の入力を励行させ、その変化を敏感に捉えながら、生徒とのきめ細やかなコミュニケーションを通して、生徒の置かれた現状の把握に努めた。 <p>【ICTの効果的な活用を推進していく】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スタディサプリやデジタルドリルの宿題配信で家庭学習を充実させた。教科書のQRを学びのポータルに登録したことにより、復習や授業での演習に役立てられた。
特別支援教育	<p>【教育活動支援員や家庭と連絡を密にし、個々の発達状態に応じた教育の実践に努める】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 週1回通級担当と支援員の打ち合わせを行い、情報を共有した。 ・ 保護者との連絡ノートなどで、家庭との連携を密にした。

総合的読解力	<p>【情報を正しく読み取り、自分の考えを形成し表現する総合的読解力を育成する】</p> <ul style="list-style-type: none">・スライドの使用や言語活動を取り入れながら各学年で授業や取り組みを行うことができた。・教材だけではなく、泊行事やその他行事に向けた取り組みも関連させ教科を横断した学びを目指して授業を行い、総合的読解力を身に付けようとする姿勢の育成、総合的読解力の向上に努めた。
--------	--